

永瀬ダム

永瀬ダムは、物部川河口より約 31.4km 地点の高知県香美市香北町に建設された多目的ダムです。物部川の流域は四国の多雨地帯に属していて、古くから下流の香長平野ではしばしば激しい洪水の被害を受けていました。その一方で、降雨は梅雨期と台風期に集中しており、晴天が続けば河川は急激に減水し、干ばつによる被害も少なくありませんでした。このため、物部川では大正時代から先覚者たちにより物部川総合開発の気運が盛り上がりましたが、戦争のためダム建設は実現には至りませんでした。

戦後、昭和 21 年に香長中部平野振興会が結成され、物部川ダム建設に向けた猛運動が重ねられた結果、国もその重要性を認めるところとなりました。昭和 24 年に河水統制事業として建設省直轄で調査・計画に着手、昭和 25 年度から見返資金により本格的な建設に着手し、昭和 26 年度から公共事業による河川総合開発事業と改称されました。また、ダム建設によって生じる落差を活用して発電を計画し、ダム直下流に永瀬発電所を、その下流に吉野・杉田の発電所を建設することになり、永瀬ダムの工事実施は建設省が、永瀬・吉野・杉田の 3 発電所は県営電気事業として高知県が行うことになりました。

ダム建設工事は、昭和 25 年度より転流工、仮設備工、付帯工事に着手し、転流工の完成を待って、昭和 26 年 1 月に起工式が行われ、基礎掘削工事が着手されました。昭和 27 年 11 月にコンクリート打設が開始されましたが、昭和 29 年 9 月に来襲した台風 9 号により記録的な出水や岩盤の崩落に見舞われました。しかし、対策が講じられて、昭和 30 年 5 月に一次湛水を開始し、その後二次湛水、8 月には永瀬発電所が営業運転に入りました。永瀬ダムは昭和 31 年 6 月に完成し、昭和 32 年 8 月に建設省から高知県に引き継ぎ移管されました。

永瀬ダムは、洪水調節、かんがい用水の供給、水力発電の 3 つの働きをしています。洪水調節では、物部川下流域の洪水被害を防ぐため、ダムのゲート操作により一時的に水をダム湖に貯留して、下流への放流量を調節しています。かんがい用水の供給では、貯水量の計画的な使用によって、香長平野の田畑に必要な用水を供給し、干ばつによる減産を防いでいます。発電は、永瀬・吉野・杉田の 3 つの発電所で水力発電を行っており、3 つの発電所合計の 1 年間の発電量は標準的な家庭（4 人家族）51,200 戸で 1 年間に使う電力量に相当します。

永瀬ダムのおかげで、私たちの生活は恩恵を受けています。その背後には、ダムをつくるために長年住みなれた土地を離れたり土地を提供した関係者が 792 人いたこと、ダムと発電所の工事で殉職した人が 25 人いたことを忘れることができません。

<参考文献：高知工事事務所編「高知工事事務所四十年史」1987 年、四国の建設のあゆみ編纂委員会編「四国の建設のあゆみ」1990 年、高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」1998 年、高知県ホームページなど>

